



市報

2003 1/1 NO.1331

JANUARY

Communication Paper Yamaguchi

CONTENTS
主な内容

新春特集

一人ひとりが地域の主役



秋穂二島・美濃ヶ浜から望む

●発行／山口市 〒753-8650山口市亀山町2-1 ☎922-4111
●ホームページ／<http://www.city.yamaguchi.yamaguchi.jp/>

●編集／企画財政部広報広聴課 ☎934-2753
●Eメール／koho@city.yamaguchi.yamaguchi.jp

●印刷／株式会社マルニ
古紙配合率100%再生紙使用



一人ひとりが

地域の主役

市民のみなさんのさまざまな活動を通して生まれる、人と人、地域と人の多様なつながり、ネットワークが、まちの元気を創り出します。地域で自分らしく、いきいきと活動している人にお話を聞きました。

新しい年を迎え、みなさんも、一緒にまちの元気を創り出しませんか。



まちの元気は、
人と人、
地域と人の
つながりから

上 箆袋に描かれた徳重さんの絵/右中 まちの子に稲刈りを体験させる仁保むらづくり塾/右下 二島で行われたニュースポーツ教室/左下 宮野の秋を彩るコスモス畑

若い力で 目指せ！ 仁保むらづくり



石原 浩さん
仁保むらづくりさまざまな活動を通して仁保を引っ張る若手リーダー。

「地域での活動？仁保子ども会でしょ、市体育指導員でしょ、仁保消防団でしょ・・・」と出てくる出てくる。「まあ、こんなにあつちもこつちも顔をだしちよるのはオレぐらいやろうね」と笑う石原浩さん。まさに仁保が育てた若手代表といったところです。

その活動の中で興味を引かれるのが「仁保むらづくり塾」。若い力で仁保を盛り上げていく——そんな思いでつながった人たちが地域のために奮闘しています。

「せっかく大先輩たちが生活環境や交流施設などを整えてくれた。今度は若い力が中心となって、それら環境を活用した『住みたくなる、行ってみたいくなる』仕掛けづくりをしていかんとね」と話す

人との出会いを大切に



林由喜子さん
青少年健全育成協議会指導員、他、特技を生かした活動を行う。

今年度から学校週五日制が始まりました。その取り組みとして青少年健全育成協議会の指導員の林

石原さん。その仕掛けのひとつに、中市商店街との交流「えびす交流田」があります。「これはまちの子どもにも農業体験を指導するというもの。まちから仁保を見てもらういい機会だし、中市商店街へ向いて仁保のピーアールもできる」と話します。

「仕掛け倒れにならないためにも、仁保のむらづくりには子どもからお年寄りまでみんなが参加してほしい。みんなのパワーをそろえれば、元気で溢れた仁保が見えてくるよ」と話してくれました。



山口市議会議長 秋本邦彦

平成15年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

21世紀の県勢をリードするにぎわいと活力に満ちた中核都市づくりを推進するために、「やまぐち情報文化都市づくり」の拠点施設である山口情報芸術センターが今秋にオープン予定であり、また、新たな地方分権を目指す県央部2市4町での合併問題が検討され、年明け早々の法定合併協議会準備組織の設置、3月までの早い時期に法定合併協議会設置という大きなうねりの中で本年は山口市にとっても画期的で飛躍の年になることが予想されます。

市議会といたしましても、住民の負託に応えられるよう、行政に対する監視・牽制機能を担う第一義的機関としてこれまで以上に能力の充実・強化を図り、また個性豊かで活力に満ちた自主・自立の分権型社会の実現に向け、今後とも最大限努力していく所存であります。

新しい年を迎えるに当たり、市民の皆様の一層のご協力とご指導をお願いし、皆様のご多幸をお祈りして、新年のごあいさつといたします。

賀春



山口市長 合志栄一

新年あけましておめでとうございます。

新しい門出にあたりまして、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

地方分権・自治をにらんだ市町村合併の推進、国と地方との関係の見直し論議など、地方自治体を取り巻く社会経済情勢はめまぐるしく変化しております。

本市では、^{いのち}生命が豊かに育つ、21世紀のモデル都市「西の京やまぐち」の実現に向け、本年を「新たな飛躍に向かって発進する年」と位置づけ、「特色ある県央中核都市づくり」「生命を育む健康な地域づくり」「市民の目線に立つまちづくり」を柱に取り組んでまいります。特に、中核都市づくりにつきましては、本年3月までの法定合併協議会発足に向け、防府市、徳地町、秋穂町、小郡町、阿知須町とともに県央部合併推進協議会を1月6日に設置することとしております。

今後とも市民の皆さまと力を合わせて、元気で活力あるまちづくりを進めてまいりますので、一層のご協力とご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

由喜子さんは、土曜日を使って、和紙を使った大内人形づくりなどいろいろな作品を子どもたちに教えています。また週に二回、大内公民館でアメリカンキルトなどの指導をしています。

人に新しいものを教えるには、いろいろなアイディアを出したり、試作を何度も繰り返ししたり大変なこともあるそうです。「でも、参加している子どもたちが、作品を一つひとつ作り上げて、完成したときの喜ぶ顔を見られることが嬉しいんです。悩みを持っている子ども、少しでもそれを忘れて楽しんでくれたら」と嬉しそうに話します。「悩んでいる子どもたちにも、少しでも目を向けてあげたい。そして、子どもたちが社会に出る時にいい思い出になるひとときを作ってあげたいんです」と林さん。

自分が学んだことは、どんな小さなことでも子どもたちに伝えていきたいという林さんは、「人との出会いはチャンスだと思っんです。人とのふれあいはいろいろなことを学べます。私は、『たくさんの人とふれあいたい』『お礼がしたい』という気持ちで活動しています。結局人が好きっていうことなんです」と話してくれました。

昔からの流れを 忠実に再現したい

陶の郷地区に400年前から、伝わる「陶の腰輪踊」で太鼓を打ちながら踊る『とうどり』を務められる山本幹夫さん。

この踊りは、毎年8月28日に八雲神社の風鎮祭で、風を鎮め五穀豊穡を祈って奉納されます。昔からの形式をよく伝えていと言われ、県の無形文化財に指定されています。踊りは、親鉦^{おやがね}1人、とうどり2人、子鉦^{こがね}12人が輪になり、鉦の音に合わせて踊ります。とうどりは、鶏の飾りを付けて、太鼓を打ち鳴らし、鶏の動きを表現します。「素朴な踊りですが、昔からの流れを忠実に再現し



山本 幹夫さん
陶郷地区に伝わる「陶の腰輪踊」でとうどりを務める。

ていきたい。長年、続けているので、絶やすわけにはいきません」と話す山本さん。

踊りの練習は、保存会の指導を受けて行います。「子鉦は、中学生以下の子供たちが演じますが、とうどりを受け継ぐ若者が欲しい。そのためには、若い人が参加しやすい雰囲気を作っていくこと」が課題とのこと。「陶地区にも、新しい団地があるので、地域とふれあう場を拡げていくことで、この踊りをもっと知ってもらいたい」と話します。



A 陶地区に伝わる腰輪踊を踊る山本さん B 部屋を素敵に飾る林さんの作品
C 読み聞かせをする小林さん D 益田さんのお店の様子



若者にとって可能性のあるまちに

ユニークなお店が次々と開店する山口駅通り商店街。「若い人にとって可能性のあるまちだと思います」と気恥ずかしそうに話すのは、14年3月にCDショップを駅通り商店街にオープンした益田和己さん。自分のお店を出したかったという思いを友人の励まし、支援を受け実現します。

お店の自慢は、「店員の豊富な知識と感性。それらを生かした品揃えをしています。音楽に詳しくない人も気軽に入れるお店にしていきたい。将来は、お客さんがお店の中でくつろげて、いろいろな会話、交流が行える場所にしていきたい」と話しま



益田 和己さん
駅通り商店街に、CDショップ「Saudade Life records」を開業。

す。

これからの山口市について、山口情報芸術センター・プレイベント「サウンド・テクトニクス」にスタッフとして参加した益田さんは、「仕事から、市内外から、センターに期待を寄せている人が増えてきているのがわかります。理解されにくい面もあるけれど、山口市にとっていろいろな可能性をもった施設だと思いません。若者が交流する魅力的なまちになってほしい」と話してくれました。

人と人とのつながりを大切にしたい



島崎 英司さん

山口大学おもしろプロジェクト「めだかの学校」代表を務める。

島崎英司さんは、「めだかの学校」の代表で、子どもたちと自然に触れ合いながら遊ぶイベント等を行っています。「最近、近所のお兄さんと子どもが遊んだりすることがないですね。地域の間関係が希薄になっていると思います」と話します。島崎さんは「めだかの学校」の活動を通じて、地域での人と人とのつながりが生まれればと考えています。

また、大学生や大学についても、地域との触れ合いが足りないと考えています。「学園祭などの時でも、学生以外の姿はあまり見かけない。大学はもっと地域に対して開かれたものでなければいけない。地域と大学が相互に交流し合い、つながりが深まることで、大学の質も高くなっていくと思います」。

山口市については、「私は、県外の出身なのですが、ほたるを普通に見ることができる環境に感動しました。山口市には、都市にはないすばらしい自然環境がある。この『山口らしさ』を生かして、高齢者や子どもにやさしい、人と人とのつながりがある、住みよいまちとして発展してほしいと思います」と話してくれました。

自分のまち、一の坂川をもっと自慢したい

「一の坂川沿い、大殿地区を昔のような活気のあるまちにしていきたいです」と話すのは、大内文化薫一の坂川沿いから小路に入ったところで、父親のお店を引き継ぎ理髪店を経営する倉増賢治さん。

倉増さんは、山口青年会議所の事業として、2003年の秋、大好きな一の坂川の両岸にろうそくを並べ、夜の一の坂川を幻想的に演出しようという計画もっています。これまでも、消防団に所属したり、アートふるなど地区で開催される行事に積極的に参加してきましたが、リーダーとしてイベントを行うのは、これ



倉増 賢治さん

地区の活動や山口青年会議所メンバーとして種々のまちづくりに参加。

が最初だといいます。「青年会議所のイベントとして終わらせるのではなく、いろいろな人、団体を巻き込んでいきたい。決して、大きな企画ではないけれど、この企画によって、大殿地区を中心に人と人とのつながりや賑わいが生まれたいと思います」と意気込みを話します。

「自分のまち、川を自慢したい思いがあります。これからは、まちを動かす人、集まりの中にいたいですね。見ているより参加する方が楽しいですから」と話してくれました。

子どもたちに本の楽しさを教えてあげたい

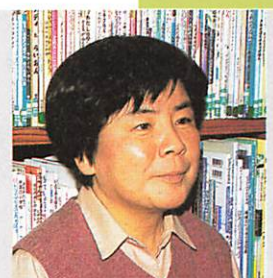
小林育子さんは、子どもたちに、自宅にある「木かげ文庫」で本を貸し出したり、吉敷公民館で絵本の読み聞かせなどを行っています。「最近の子どもは本を読まないなんて言われていますが、そんなことはないんですよ。いい絵本に出会ったら、みんな楽しく真剣に聞いてくれるんですよ。大人が子どもにも本の楽しさを教えてあげなければいけないですよ」と読み聞かせについて話します。

最近の本の読み聞かせに対する関心が高まっている、「読み聞かせは子どもによい影響を与えます。地域での活動がもっと活発になり、地域全

体で子どもたちを育てていきたいですね」と話す小林さん。

また、市立図書館については、「図書館は、子どもたちが楽しく自由に本を読む場所であってほしいし、市民にとって、生活の一部として根付き、市民が集うコミュニティの場となってほしい」と思いを話します。

小林さんは、読み聞かせの活動について「無理をせず、出来るだけ長く、おばあちゃんになっても続けたいし、この活動を大切にしていきたい」と話してくれました。

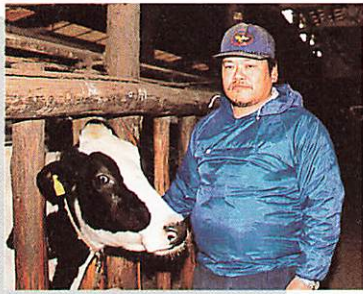


小林 育子さん

「木かげ文庫」代表。本の貸し出し、読み聞かせの活動を行う。

人と人のつながりの輪をを広げたい

私たちが地域の農業を守っていく



本廣 誠さん

鑄銭司で親子2代の酪農家。JA鑄銭司支部青年部会長も務める。

本廣誠さんは鑄銭司で親子2代にわたって酪農を営んでいます。現在は54頭の乳牛を飼育しており、毎日の日課は朝5時の搾乳から始まります。

鑄銭司は市内でも酪農が盛んな地域ですが、「私の地区でも農家の高齢化が進んでいます。でも、実際これからの農業を支えていかなければならないのは今いる私たちなんですよ。だから新しいことをどんどん提案して、また地域の先駆者の方々にもいろいろご指導いただきながら地域の農業を守っていくことが必要だと思っています」と本廣さん。

また、「高齢化が進む中で、地域の農業をこれ以上荒らさないためにも、例えば、できない人の代わりにできる人がやるとか、お年寄りの代わりに若い人が、というように、地域で助け合うことが必要なんじゃないでしょうか。私は、地域のつながりなくして農業の存続はない、と感じています」。

本廣さんは認定農業者でもあり、規模拡大や機械化など、さまざまな経営目標を持って取り組んでいます。その中であっても、「やはり地域とのつながりを大切にして、これからもがんばっていききたいと思っています」と話してくれました。

大歳地区では75歳以上の夫婦や一人で暮らしているお年寄りに年3回、手作りのふれあい弁当を配っています。そのお弁当の箸袋に一つひとつ描かれている温かい絵。この絵を描いているのが徳重薫さんです。

「ふれあい弁当の活動の趣旨にとっても共感して、私も何かしたいと思っただけです。何か自分にもできることはないかと考えたときに、『これなら』と思って始めました」。

この活動はお弁当を作っている人や配っている人、お弁当に添えるペーパーフラワーを作っている人、いろいろな人がいて成り立っているも

のです。それぞれの活動に携わっている人たちに直接会ったことがないという徳重さんですが、「一つのことをつながってやっている、心が一つになっているということが嬉しいんです」と笑顔で話します。

「一人ひとりが出来る小さな活動がつながり、輪になって地域活動は成り立っているんです。こういうことは始めるのが一番難しいと思います。次に難しいのは持続すること。この輪がみんなに広がって、ずっと続けられたら」と話してくれました。



徳重 薫さん

ふれあい弁当の箸袋の絵の他、さまざまな地域活動に参加。

花で美しく保たれ、地域づくりができれば

宮野岩杖で「コスモスマつり」を続けられる藤井朝子さん。コスモスを植えるきっかけは、「約10年前に、耕作者がいなくなり荒れた田を、コスモスで美しくと老人クラブの人と始めてからです」と話します。

「最初の年は、草の刈り取りや松の根っこを取り除く作業が大変でした。それで、3年続いたらお祝いをと『花見』をしたのがお祭りに発展しました。多くの人に見て欲しいので、木工や竹細工のお店を出し、お祭りに参加した人には、焼き芋と熊笹茶を振る舞います」。コスモス畑は、今では、1ヘクタールに広がったと

のこと。

これからの活動については、「植え付け作業は、約14人のグループで行っていますが、高齢者が中心となっています。これからは、若い人も声をかけ、活動の輪を拡げていきたい」と話します。花が咲いていると地域に愛着がわくといわれる藤井さん。「私たちはふるさとの留守番です。身近な環境が花で美しく保たれ、それが地域づくりになればと思います。将来は、1年中いろいろな花が咲く里を作りたい」と話します。



藤井 朝子さん

宮野岩杖で10年前から「コスモスマつり」を主催。

みんなが気軽に参加して 楽しめるクラブにしたい

秋穂二島生まれの秋穂二島育ち。

横沼和子さんは今年の4月に発足する二島コミュニティクラブ設立準備にかかわっている一人です。

「このクラブは、スポーツやレクリエーションなど、子どもからお年寄りまでみんなが参加できて楽しめる、そんなクラブを目指しています。二島の地域性を活かしたフィッシング、マリインレジャーなどのメニューも企画しているんです」と話します。二島の留守家庭児童学級の指導員でもある横沼さんは、「親が働いていて忙しい子どもにとって、学校帰りに気軽に立ち寄って、楽しく遊べる



横沼 和子さん
4月に発足する二島コミュニティクラブ設立準備に関わる。

場所がもっとあったら、と思って当初から関わってきました」。

また、「二島は3世代家族が多くて、今でも運動会には家族全員が参加します。私も小さい頃からこの環境で育ち、とても楽しく過ごしてきたので、私も地域への恩返しを、という思いもあるんです」と話します。

「クラブでは、みんなが楽しめるメニューをどんどん取り入れて、『これが二島のコミュニティクラブだ』と思えるようなものにしていきたいと思っています」。

笑顔をつなげる活動 そこに感動がある

佐山地区には、自分の体にあった、できる範囲の奉仕活動をコツコツしていこうという会があります。「さやま蟻の会」です。

小柄な体から元気が溢れ出ているような印象を受ける会長の生田敬子さん。奉仕活動の他にも山登りや太極拳など趣味も多彩ですが、そのどれをとっても活動歴が長いのです。

「続けてこれたのは、何か『感動』があるから。奉仕活動にとって、感動は笑顔でしょうか。相手の笑顔と私の笑顔をつなげていく活動をこれからもしていきたいです」と生田さん。蟻の会では、毎月、阿知須の特



生田 敬子さん
さやま蟻の会会長として、奉仕活動や地区行事の手伝いを続ける。

別養護老人ホームを訪れ、掃除をしたり、入所者の話し相手になっていきます。また、地区の行事の手伝いや、80歳の誕生日を迎えた人へタオルをあげたりとその活動はさまざま。活動の多さと、活動歴の長さで笑顔の輪もどんどん広がっています。

「これからも自分たちにできる範囲の活動を続けていきます。そして他の福祉グループと連携をとって地域をもり立てていければ。自分の地域ですから良くなるほどうれいすよ」と話してくれました。

1月の放送です



山口のんた情報

(山口ケーブルテレビ)

午前7時50分(火・金)、午後零時20分(月・木・日)、午後6時25分(水・土)、午後10時30分(火・金)から20分間放送。

- 1日～15日 「新春対談 地域福祉と住民参加」
- 16日～31日 「実践! スローフードライフ」

わたしたちのまち山口

(テレビ山口)

毎週日曜日、午前11時40分から4分間放送。

- 5・12日 「新春市長インタビュー」
- 19・26日 未定

やまぐちしま専科

(山口朝日放送)

毎週水曜日、午後1時55分から4分間放送。

- 1・8日 お休み
- 15日 「分別収集 その行方～ペットボトル編～」
- 22日 「おめでとう! 地域で祝う仁保地区成人式前夜祭」
- 29日 未定

キラリンピックのスローガンを募集

県では、身体障害や知的障害がある人の社会参加を促進するため、山口県障害者スポーツ大会「キラリンピック」を開催しています。来年度の第3回大会の開催にあたり、障害のある人、また県民のみなさんから広く大会スローガンを募集します。

- ◇**応募資格** 県内に在住の人
- ◇**募集内容** 小学生部門、中学生部門、高校生・一般部門より選択し、障害者スポーツ大会にふさわしいスローガンを考えてください。

※作品は未発表のものに限ります。

※一人何点でも応募できます。

- ◇**応募方法** 1月17日(金)までに、指定の応募用紙、ハガキまたはEメール(スローガン、〒住所、氏名・フリガナ、年齢、電話番号、職業、学校名、学年を明記)で県障害者スポーツ大会運営委員会事務局へ

- ◇**応募先** 県障害者スポーツ大会運営委員会事務局(県障害福祉課内〒753-8501滝町1-1 ☎933-2765 FAX933-2779 Eメールa14100@pref.yamaguchi.jp)

1月のリサイクルアイデア講座 (午前10時～正午)

和服のリフォーム	7(火) 28(火)
パッチワーク(初級)	8(水) 18(土)
さき織り	9(木) 16(木) 23(木) 30(木)
トールペインティング	15(水) 29(水)
パッチワーク(中級)	15(水) 29(水)
洋服のリフォーム	16(木) 23(木)
毛糸のリサイクル	17(金) 31(金)
布遊び	18(土) 25(土)
カントリードール	15(水) 22(水)
ネクタイでベスト、小物作り	24(金) 31(金)
牛乳パックでソーイングケース作り	25(土)
余り布で作るコサージュ	30(木)

※パッチワーク(初級) 18(土)は、午後1時～3時

※パッチワーク(中級)・カントリードール・トールペインティングは、午前9時30分～正午

おもちゃの病院

- ◇日時 1月12日(日)
- ◇受付時間 午前10時～11時30分
- ※次回のフリーマーケットは3月9日(日)
- ◇問い合わせ 山口市リサイクルプラザ ☎927-7122 FAX927-7133

エコパークやまぐち
かわらばん



新年あけましておめでとうございます。今年(未(ひつじ)年)です。「羊」という字は、「祥」に通じており、縁起のよい字とされています。幸多い年となるようお祈り申し上げます。▼今回は、地域で活動をされている人に、活動を通じた地域への思いを聞きました。皆さんも身近なことから活動を始めませんか。▼市報は、皆さんの活動に役立つ情報提供をめざします。ご愛読くださいますようお願い申し上げます。

編集後記

絵の提供：徳重さん(6ページ掲載)



●休日当番医の変更について(吉南医師会)
1月12日 たむら医院 → 阿知須共立病院(☎0836-65-2200)

お知らせ



平成15年 山口市消防出初式

- ◇日時 1月12日(日) 午前10時～午後零時30分
- ◇場所・内容 山口南総合センターホール：式典/山口南総合センター運動広場：検閲および観閲行進、公開訓練、一斉放水 ※当日は温かい豚汁(無料)を用意しています。
- ◇問い合わせ 市総務課消防担当(☎932-2202)

山口都市計画下水道変更案の縦覧

市では、山口都市計画下水道変更案の縦覧を行います。

この案について、縦覧期間満了の日までに市長に意見書を提出することができます。

- ◇縦覧期間 1月8日(水)～23日(木) 午前8時30分～午後5時15分
- ※土・日・祝日は除く
- ◇縦覧場所 市下水道建設課(市役所2階)
- ◇問い合わせ 市下水道建設課(☎934-2782)

興味のある子集まれ！ボランティア活動「体験交流スタディーズ」

ボランティア活動を広めるための話し合いをしたり、世界規模で活動を行っている団体の活動報告を聞いてみたいしませんか。

- ◇日時 2月2日(日) 午前10時～午後4時
- ◇場所 県政資料館(滝町1-1)
- ◇対象 小学4年生以上・中学生・高校生年代のお友達 約50人
- ◇参加料 無料
- ◇申し込み 1月20日(月)までに 門田さん(☎FAX923-0197)